

オリンピック・パラリンピック開催、 障害者スポーツに関する世論調査〈概要〉

平成30年1月

調査実施の概要

1 調査目的

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や障害者スポーツの認知度等を把握することで、大会の成功と障害のある人もない人もともにスポーツに親しむことができる環境を整備するうえで参考とするため。

2 調査項目

- (1) オリンピック・パラリンピックシンボルマークおよびエンブレムの認知度
- (2) 東京2020オリンピック・パラリンピック実施競技の認知度
- (3) オリンピック・パラリンピック選手の認知度
- (4) オリンピック・パラリンピックに関する情報の収集源
- (5) オリンピック・パラリンピックおよび障害者スポーツの観戦
- (6) 障害者スポーツへの関心度等

3 調査設計

- (1) 調査対象：東京都全域に住む満18歳以上の男女個人
- (2) 標本数：3,000標本
- (3) 標本抽出方法：住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
- (4) 調査方法：調査員による個別訪問面接聴取法
- (5) 調査期間：平成29年9月1日～9月17日
- (6) 調査実施機関：株式会社 サーベイリサーチセンター

4 回収結果

- | | |
|----------------|----------------|
| (1) 有効回収標本数（率） | 1,907標本（63.6%） |
| (2) 未完了標本数（率） | 1,093標本（36.4%） |

東京都生活文化局

調査結果の概要

※nは質問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す

※M. A. はいくつでも選択

※M. T. は回答の合計をnで割った比率

1. オリンピック・パラリンピックシンボルマークおよびエンブレムの認知度

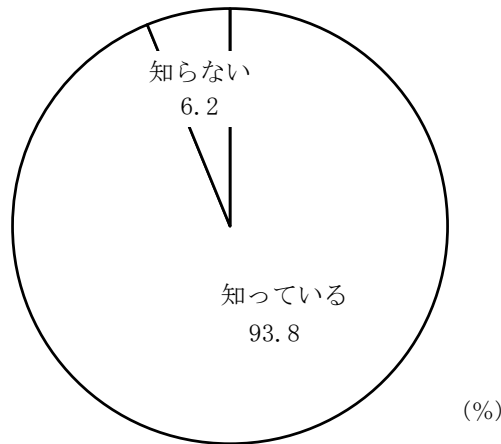
(1) オリンピックのシンボルマーク（五輪）の認知度：

オリンピックのシンボルマーク（五輪）を知っているかを聞いた

(本文P3～P5)

- ・「知っている」は94%
- ・「知らない」は6%

(n=1,907)

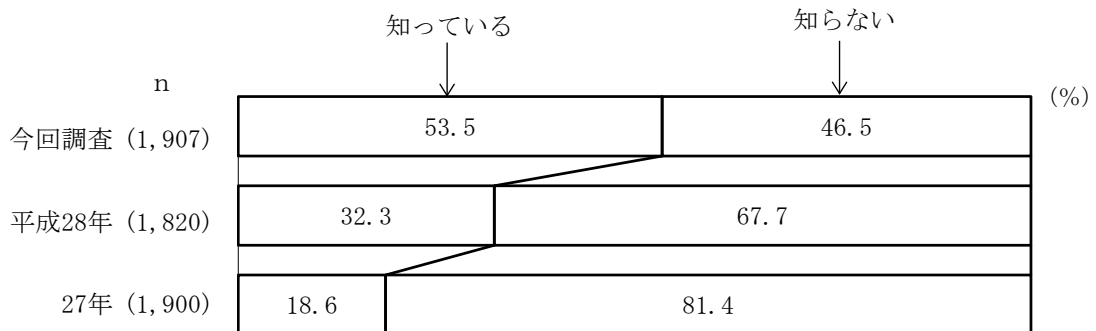


(2) パラリンピックのシンボルマーク（アギトス）の認知度：

パラリンピックのシンボルマーク（アギトス）を知っているかを聞いた

(本文P6～P8)

- ・「知っている」は54%（昨年よりも21ポイント、平成27年よりも35ポイント増加）
- ・「知らない」が47%（昨年よりも21ポイント、平成27年よりも35ポイント減少）



(注) 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」(平成28年9月調査)

平成27年は「都民生活に関する世論調査」(平成27年8月調査)

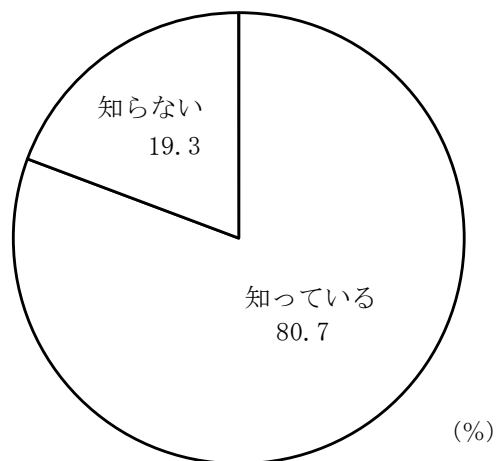
(3) 東京2020オリンピックのエンブレムの認知度：

東京2020オリンピックのエンブレムを知っているかを聞いた

(本文P9～P11)

- ・「知っている」は81%
- ・「知らない」は19%

(n = 1, 907)



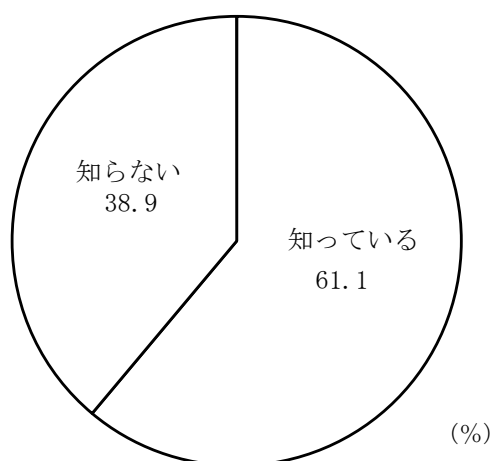
(4) 東京2020パラリンピックのエンブレムの認知度：

東京2020パラリンピックのエンブレムを知っているかを聞いた

(本文P12～P14)

- ・「知っている」は61%
- ・「知らない」は39%

(n = 1, 907)



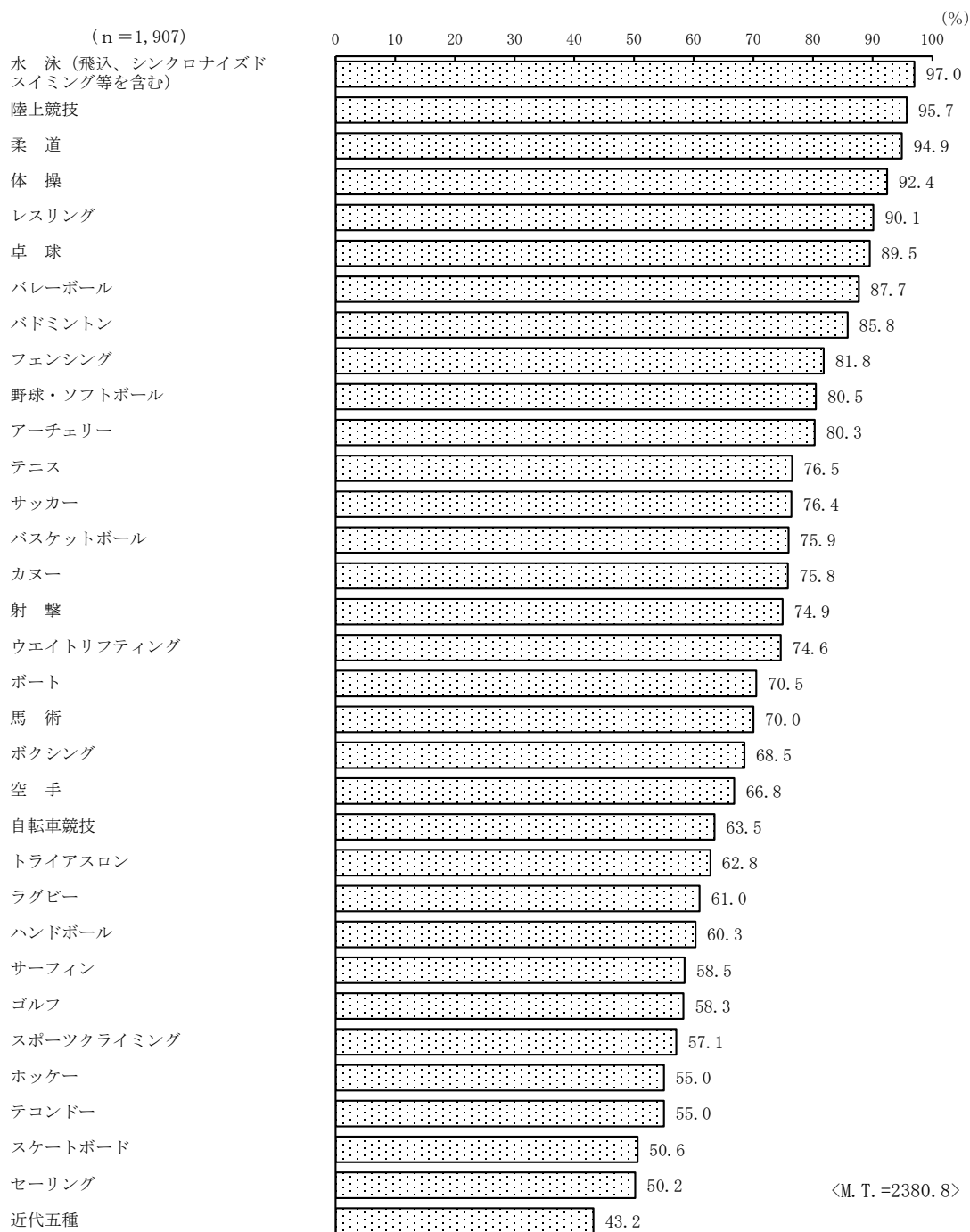
2. 東京2020オリンピック・パラリンピック実施競技の認知度

(1) 東京2020オリンピックで実施する競技の認知度：

東京2020オリンピックで実施する競技のうち、知っているものを聞いた (M. A.)

(本文P15～P17)

- ・「水泳（飛込、シンクロナイズドスイミング等を含む）」が97%でトップ
- ・「陸上競技」96%、「柔道」95%、「体操」92%、「レスリング」90%が続く

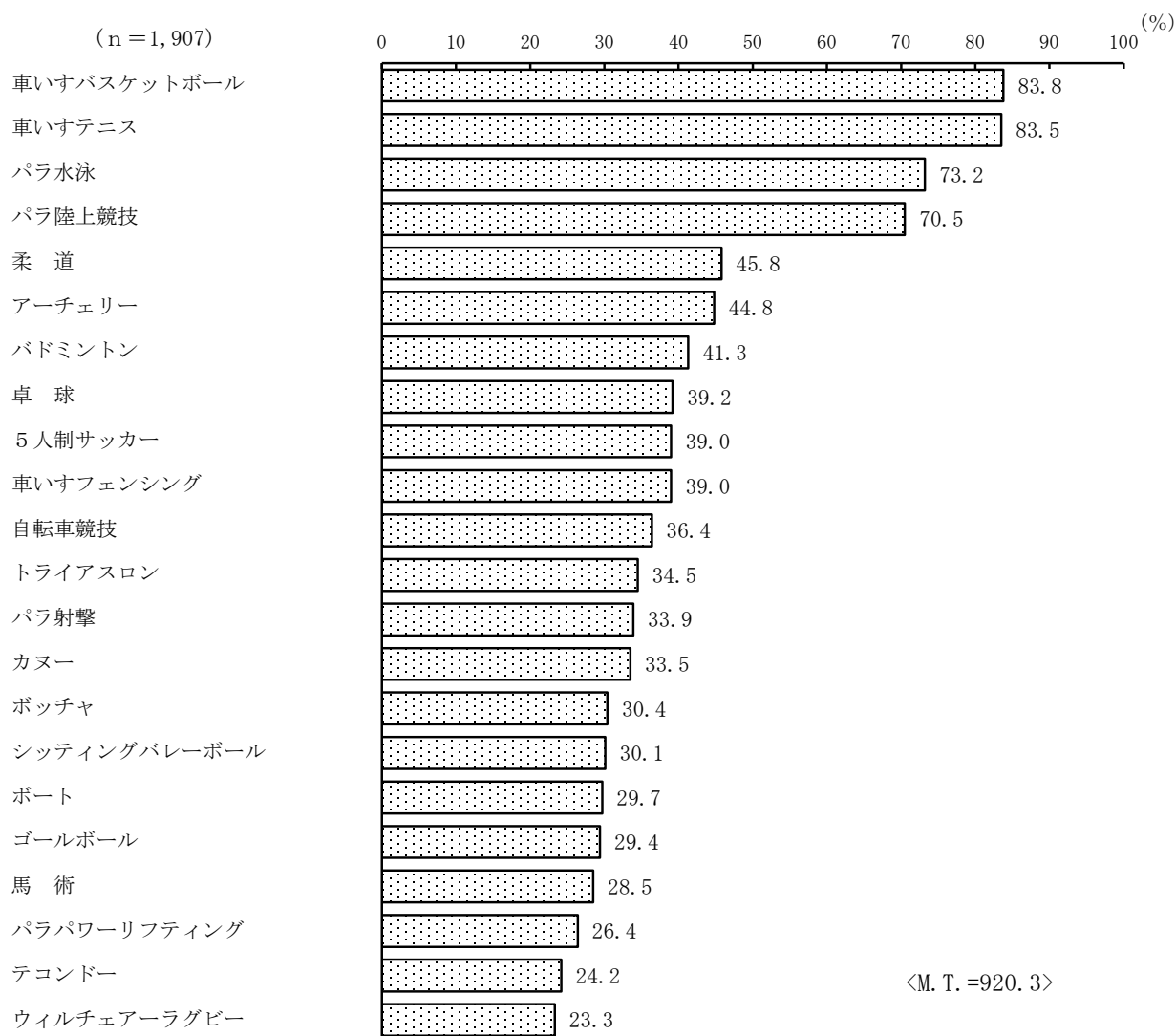


(2) 東京2020パラリンピックで実施する競技の認知度：

東京2020パラリンピックで実施する競技のうち、知っているものを聞いた (M. A.)

(本文 P 18～ P 20)

- ・「車いすバスケットボール」が84%でトップ
- ・「車いすテニス」84%、「パラ水泳」73%、「パラ陸上競技」71% が続く

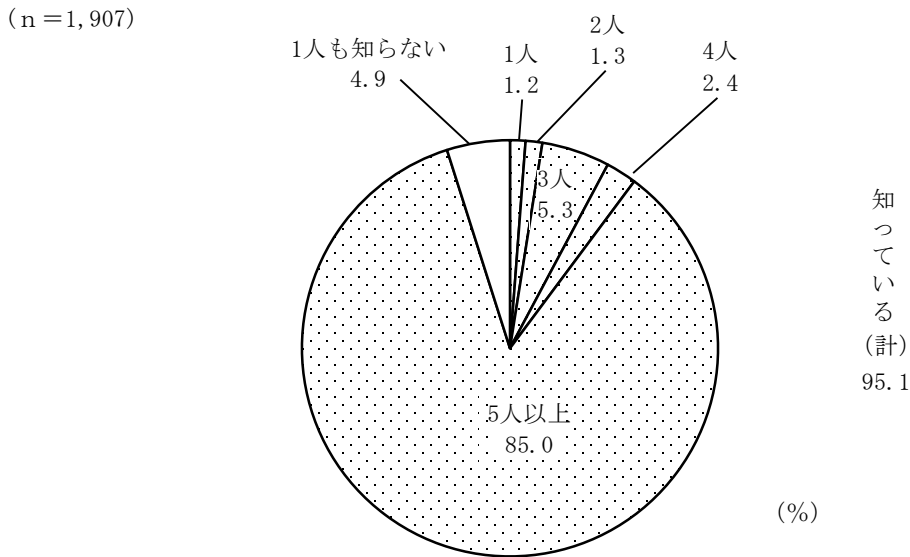


3. オリンピック・パラリンピック選手の認知度

(1) オリンピック選手の認知度：過去の大会に出場した選手や東京大会を目指している選手なども含め、オリンピック選手を何人知っているかを聞いた

(本文P21～P23)

- ・『知っている（計）』が95%
- ・「1人も知らない」は5%

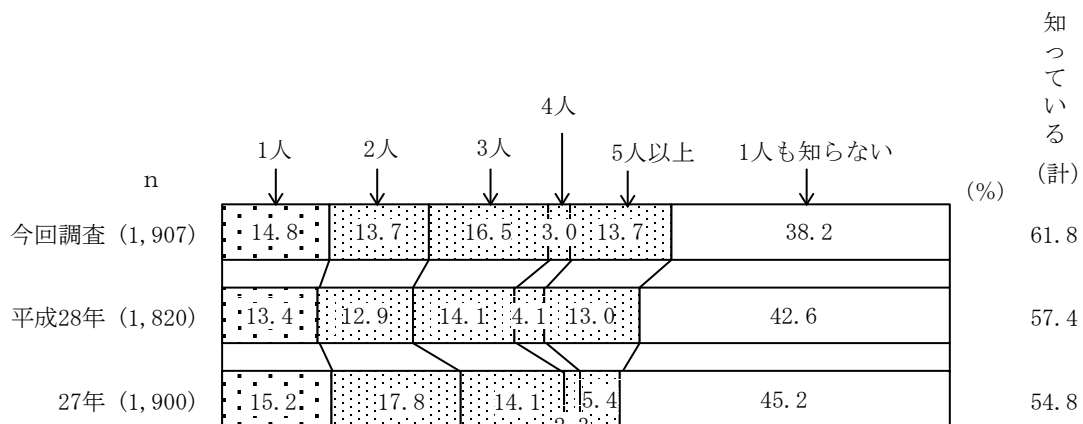


(注) 『知っている（計）』は「1人」～「5人以上」の合計

(2) パラリンピック選手の認知度：過去の大会に出場した選手や東京大会を目指している選手なども含め、パラリンピック選手を何人知っているかを聞いた

(本文P24～P26)

- ・『知っている（計）』が62%（昨年よりも4ポイント、平成27年よりも7ポイント増加）
- ・「1人も知らない（計）」は38%（昨年よりも4ポイント、平成27年よりも7ポイント減少）



(注1) 『知っている（計）』は「1人」～「5人以上」の合計

(注2) 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（平成28年9月調査）

平成27年は「都民生活に関する世論調査」（平成27年8月調査）

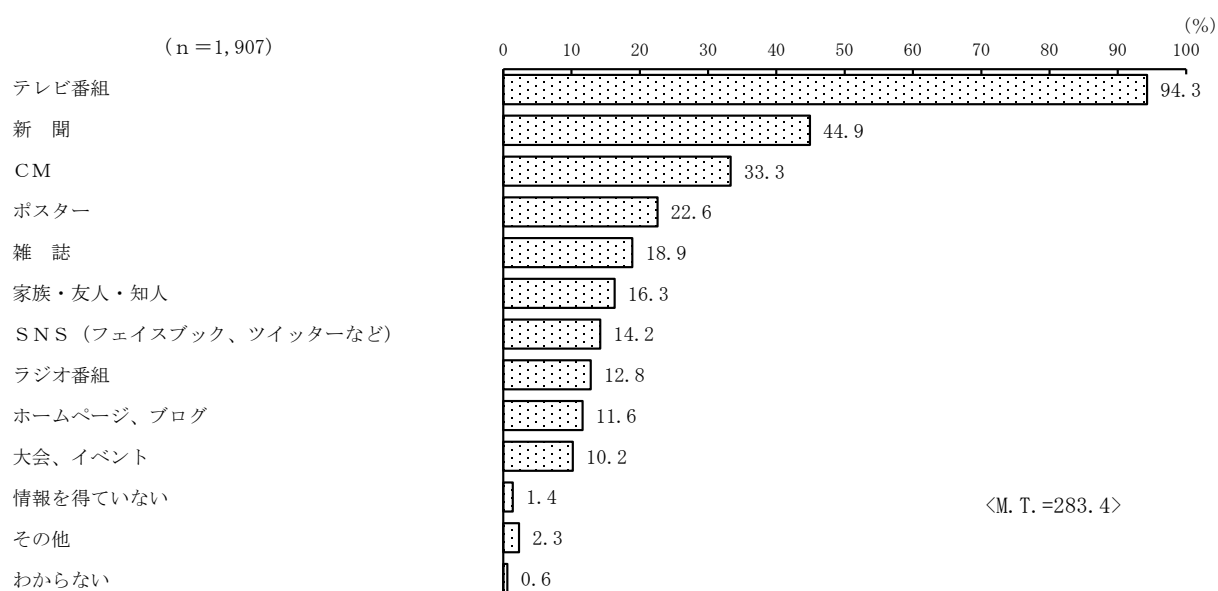
4. オリンピック・パラリンピックに関する情報の収集源

(1) オリンピックに関する情報の収集源：

オリンピックに関する情報を、何から得ているかを聞いた (M. A.)

(本文 P 27～ P 29)

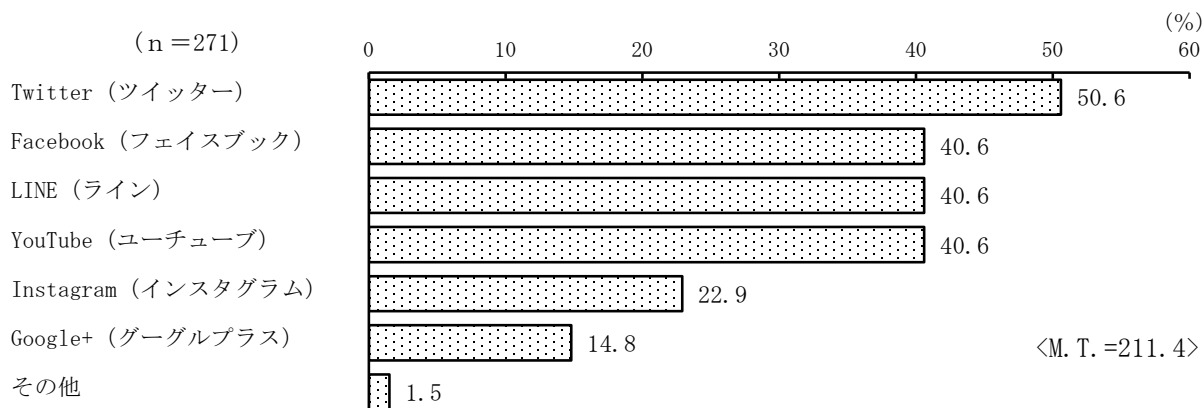
- ・「テレビ番組」が94%でトップ
- ・「新聞」45%、「CM」33%、「ポスター」23%「雑誌」19%が続く



[利用しやすいSNS]：「SNS」と答えた人 (271人) に、SNSからオリンピックに関する情報を得る場合、利用しやすいSNSについて聞いた (M. A.)

(本文 P 30～ P 32)

- ・「Twitter (ツイッター)」が51%でトップ
- ・「Facebook (フェイスブック)」、「LINE (ライン)」、「YouTube (ユーチューブ)」41%が続く

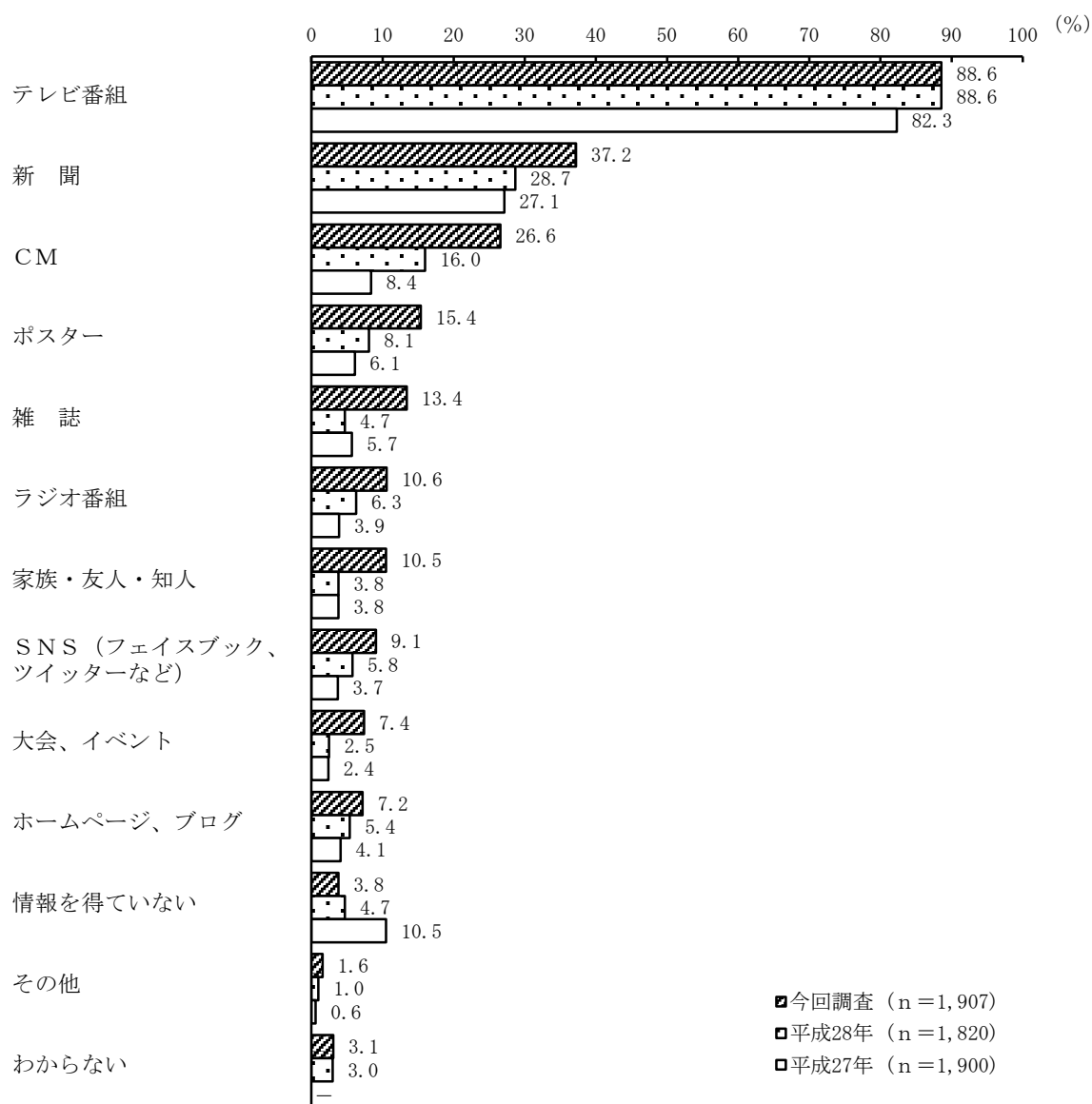


(2) パラリンピックに関する情報の収集源：

パラリンピックに関する情報を、何から得ているか聞いた (M. A.)

(本文 P 33～P 36)

- ・「テレビ番組」が89%でトップ（昨年とは大きな差はなく、平成27年より6ポイント増加）
- ・「新聞」37%、「CM」27%、「ポスター」15%、「雑誌」13%が続く



(注1) 「わからない」は平成28年調査から追加

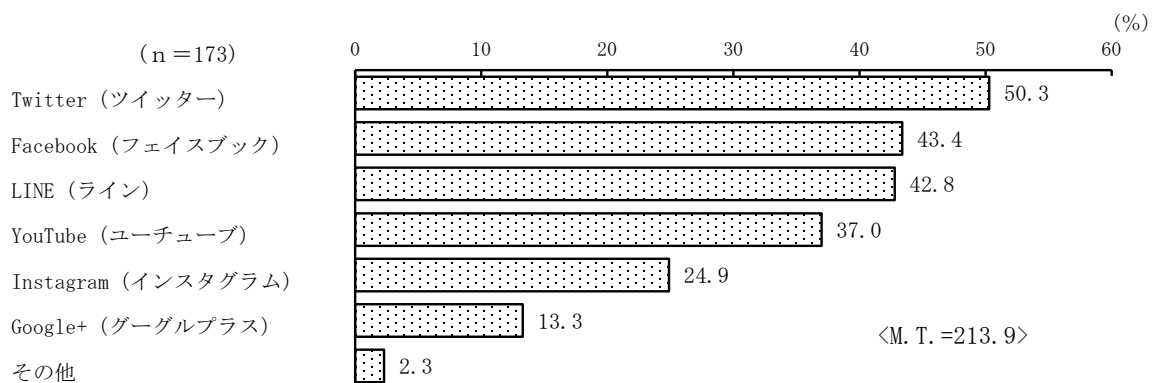
(注2) 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」(平成28年9月調査)

平成27年は「都民生活に関する世論調査」(平成27年8月調査)

[利用しやすいSNS]: 「SNS」と答えた人(173人)に、SNSからパラリンピックに関する情報を得る場合、利用しやすいSNSについて聞いた(M. A.)

(本文P37～P39)

- ・「Twitter (ツイッター)」が50%でトップ
- ・「Facebook (フェイスブック)」、「LINE (ライン)」43%が続く



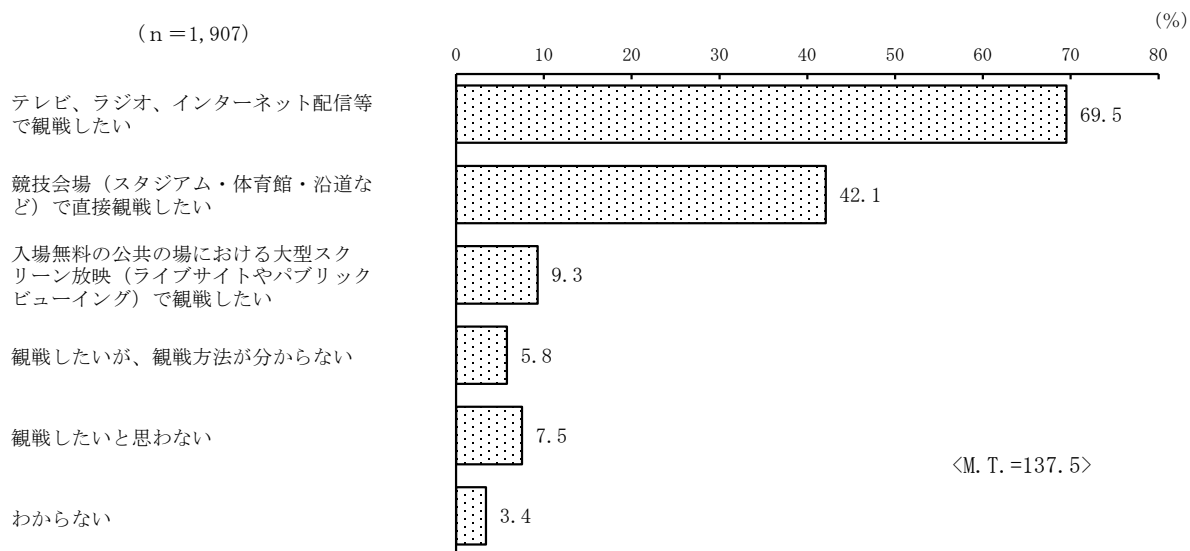
5. オリンピック・パラリンピックおよび障害者スポーツの観戦

(1) 東京2020オリンピック競技大会の観戦：

東京2020オリンピック競技大会をどのように観戦したいかを聞いた (M. A.)

(本文 P 40～ P 42)

- ・「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」が70%でトップ
- ・「競技会場（スタジアム・体育館・沿道など）で直接観戦したい」42%、「入場無料の公共の場における大型スクリーン放映（ライブサイトやパブリックビューイング）で観戦したい」9%が続く

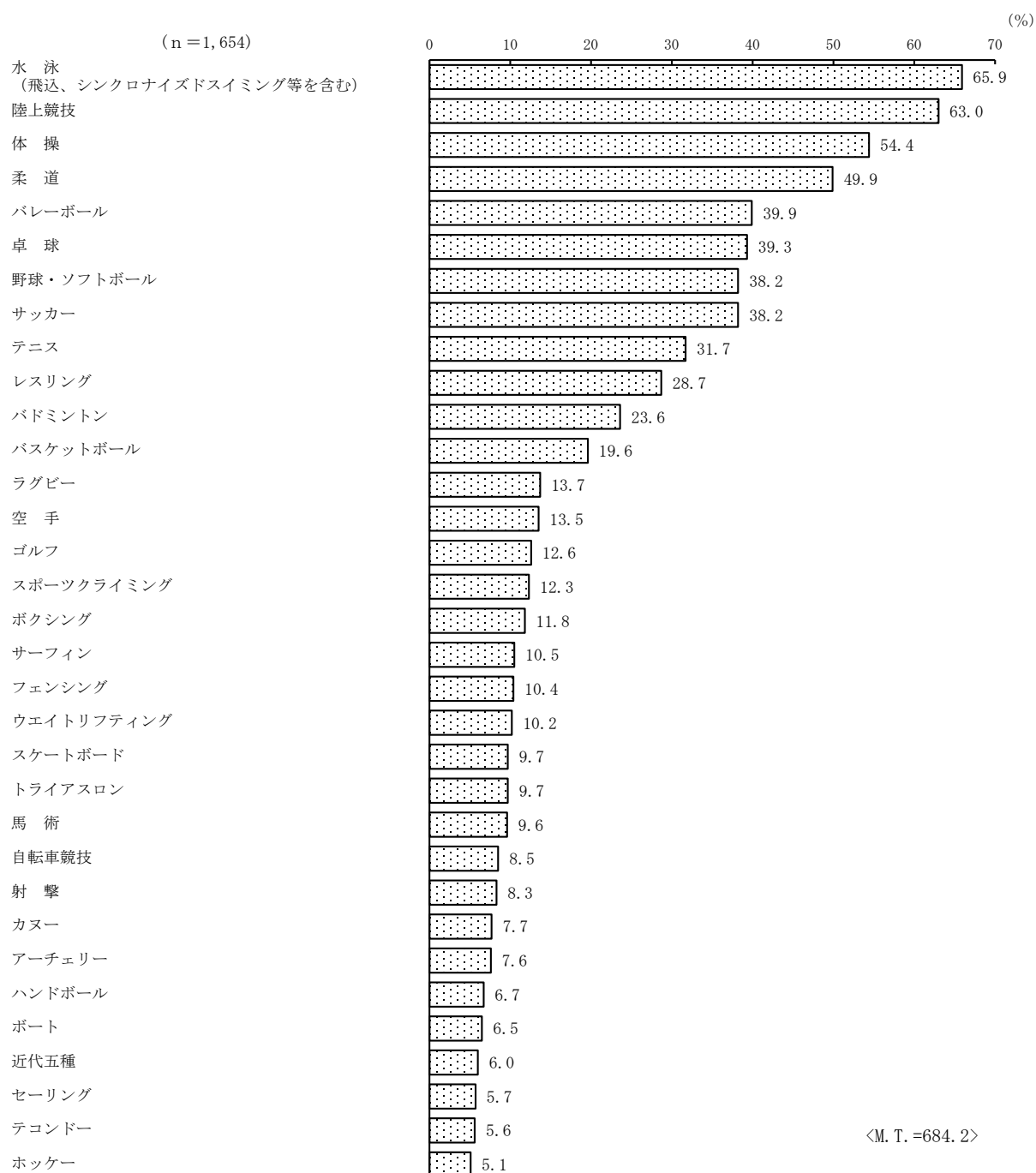


[東京2020オリンピック競技大会で観戦したい競技]：

「競技会場（スタジアム・体育館・沿道など）で直接観戦したい」「入場無料の公共の場における大型スクリーン放映（ライブサイトやパブリックビューイング）で観戦したい」「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」と答えた人（1,654人）に、東京2020オリンピック競技大会で、どの競技を観戦したいかを聞いた（M. A.）

（本文P 43～P 45）

- ・「水泳（飛込、シンクロナイズドスイミング等を含む）」が66%でトップ
- ・「陸上競技」63%、「体操」54%、「柔道」50%、「バレーボール」40%が続く

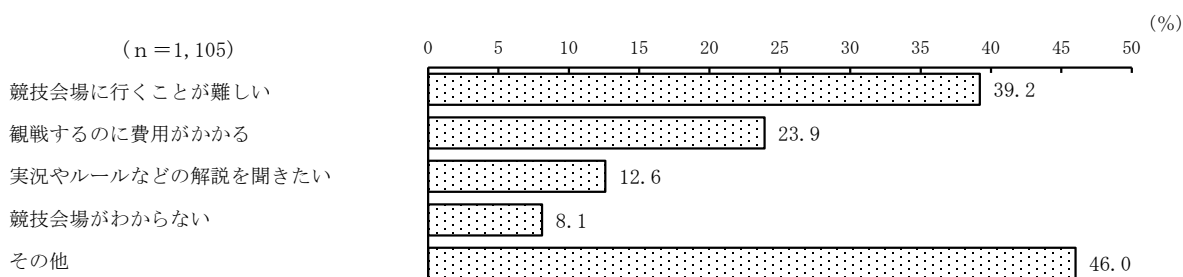


〔競技会場で観戦したいと思わない理由〕：

「入場無料の公共の場における大型スクリーン放映（ライブサイトやパブリックビューイング）で観戦したい」「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」と答えた人（1,105人）に、競技会場で観戦したいと思わない理由を聞いた（M. A.）

（本文 P 46～P 48）

- ・「競技会場に行くことが難しい」が39%でトップ
- ・「観戦するのに費用がかかる」24%、「実況やルールなどの解説を聞きたい」13%が続く
- ・「その他」の内容をみると、「混雑する」、「テレビで観る」などが挙がっている



〈M. T. =129.8〉

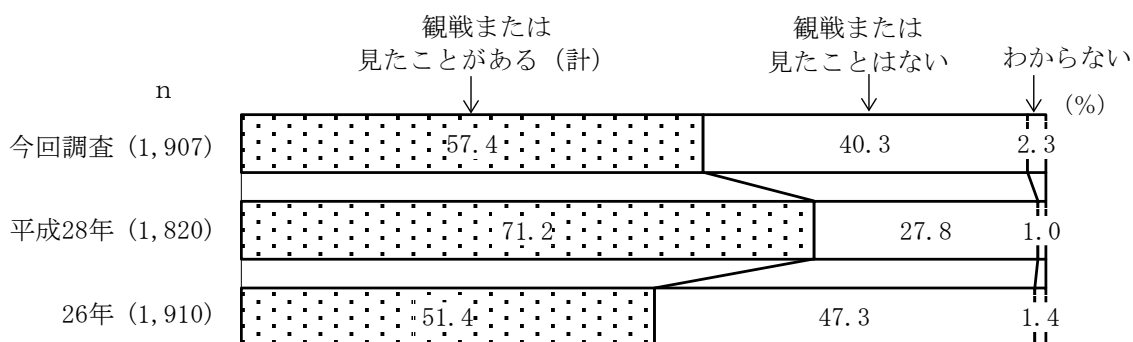
(2) 1年間に障害者スポーツやパラリンピック競技を観戦または見た経験の有無：

1年間に障害者スポーツやパラリンピック競技を観戦または見たことがあるかを聞いた

(M. A.)

（本文 P 49～P 52）

- ・『観戦または見たことがある（計）』は57%（昨年よりも14ポイント減少）
- ・「観戦または見たことはない」は40%（昨年よりも13ポイント増加）



〔注1〕『観戦または見たことがある（計）』は「スタジアム・体育館・浴道などで実際に観戦または見たことがある」

「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦または見た（ニュース等で流れるダイジェストや特集番組等も含む）ことがある」「その他」の選択肢を選んだ人の割合

〔注2〕平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（平成28年9月調査）

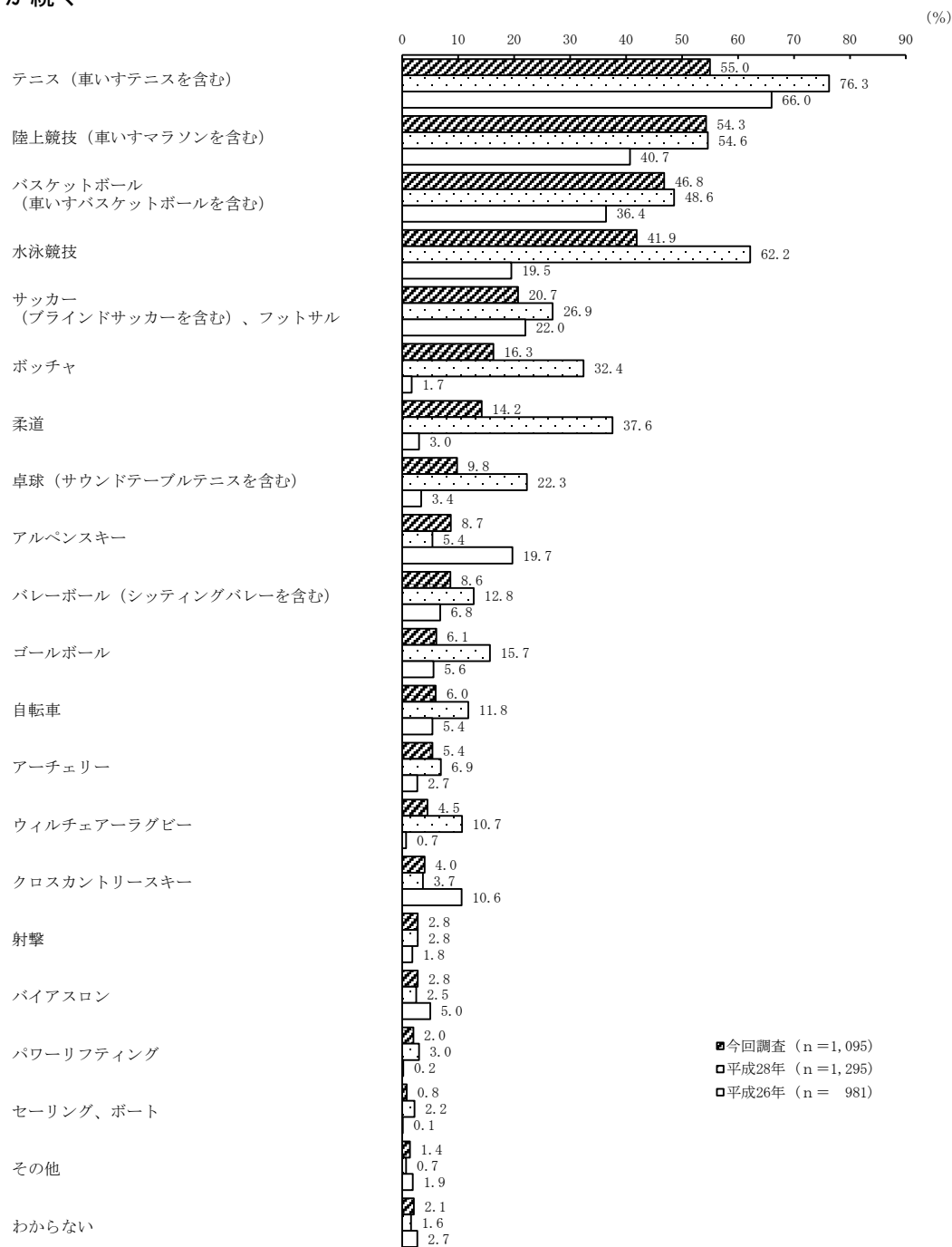
平成26年は「都民のスポーツ活動に関する世論調査」（平成26年10月調査）

[障害者スポーツやパラリンピック競技で観戦、見たことがある競技]：

「スタジアム・体育館・沿道などで実際に観戦または見たことがある」「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦または見た（ニュース等で流れるダイジェストや特集番組等も含む）ことがある」「その他」と答えた人（1,095人）に障害者スポーツやパラリンピック競技で観戦、見たことがある競技を聞いた（M. A.）

（本文P53～P56）

- ・「テニス（車いすテニスを含む）」が55%でトップ
（昨年より21ポイント減少、平成26年よりも11ポイント減少）
- ・「陸上競技（車いすマラソンを含む）」54%、「バスケットボール（車いすバスケットボールを含む）」47%、「水泳競技」42%、「サッカー（ブラインドサッカーを含む）、フットサル」21%が続く



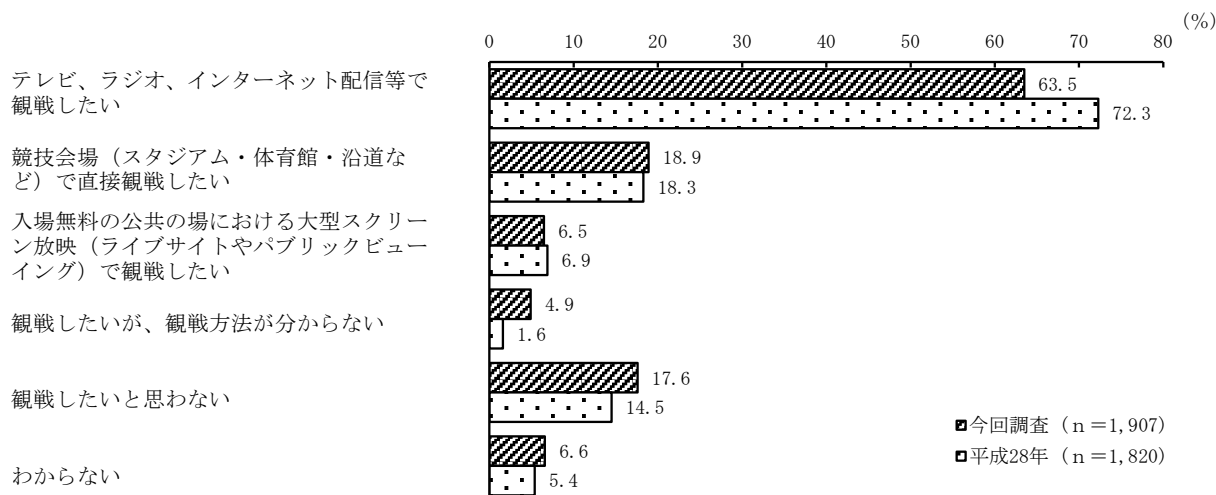
（注）平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（平成28年9月調査）
平成26年は「都民のスポーツ活動に関する世論調査」（平成26年10月調査）

(3) 東京2020パラリンピック競技大会の観戦方法：

東京2020パラリンピック競技大会の観戦方法を聞いた（M. A.）

（本文P57～P60）

- ・「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」が64%でトップ
（昨年より9ポイント減少）
- ・「競技会場（スタジアム・体育館・沿道など）で直接観戦したい」19%が続く



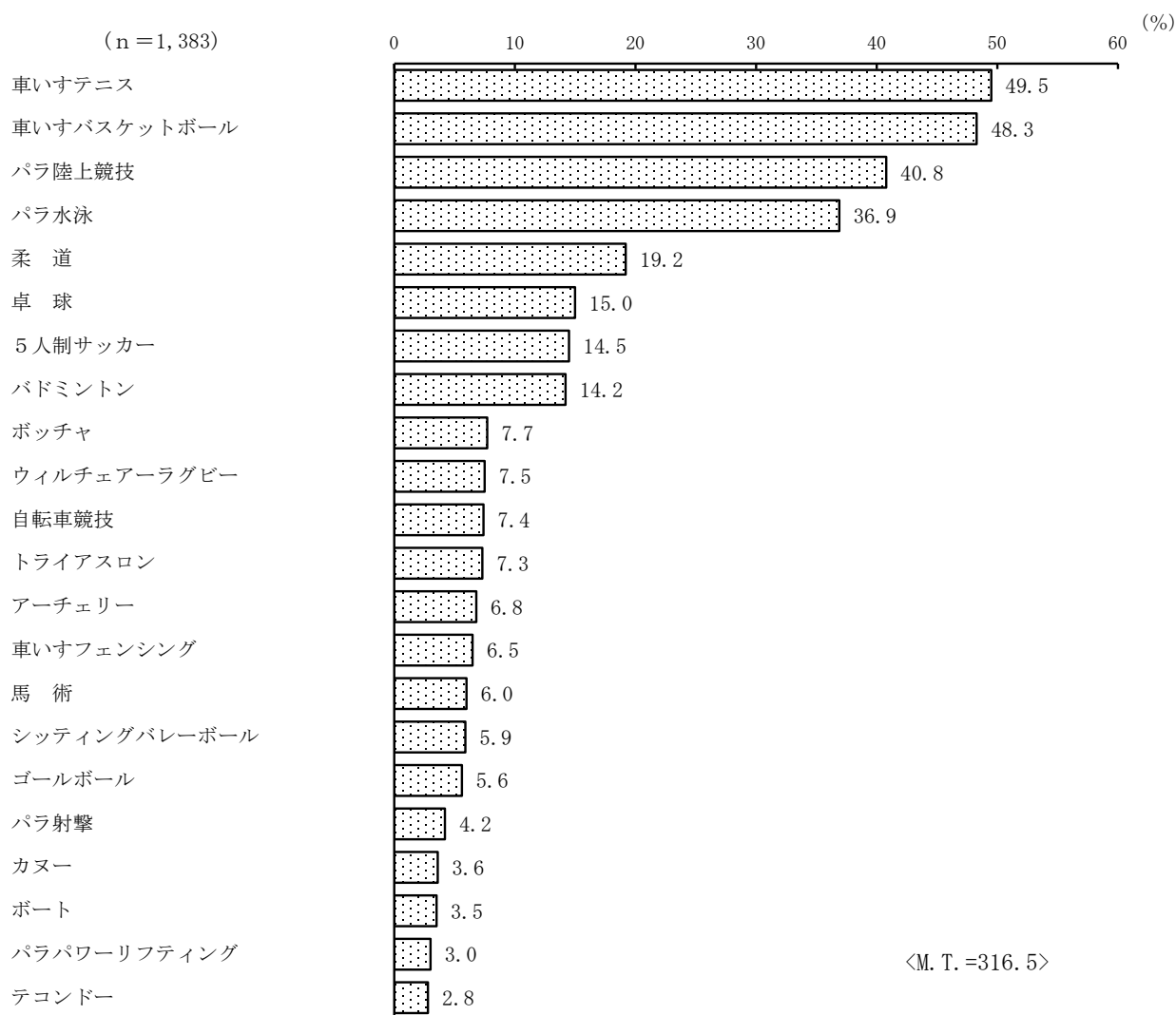
（注）平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（平成28年9月調査）

[東京2020パラリンピック競技大会で観戦したい競技]：

「競技会場（スタジアム・体育館・沿道など）で直接観戦したい」「入場無料の公共の場における大型スクリーン放映（ライブサイトやパブリックビューイング）で観戦したい」「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」と答えた人（1,383人）に、東京2020パラリンピック競技大会で観戦したい競技を聞いた（M. A.）

（本文P61～P63）

- ・「車いすテニス」が50%でトップ
- ・「車いすバスケットボール」48%、「パラ陸上競技」41%、「パラ水泳」37%が続く

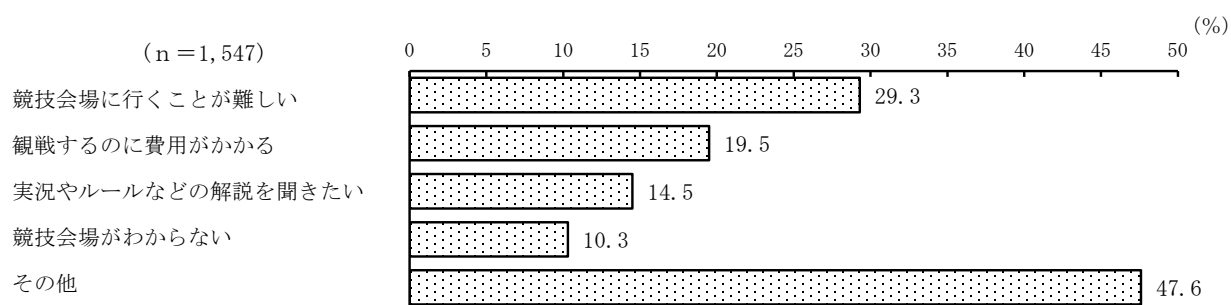


[競技会場で観戦したいと思わない理由] :

「入場無料の公共の場における大型スクリーン放映（ライブサイトやパブリックビューイング）で観戦したい」「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」と答えた人（1,547人）に、競技会場で観戦したいと思わない理由を聞いた（M. A.）

（本文P64～P66）

- ・「競技会場に行くことが難しい」が29%でトップ
- ・「観戦するのに費用がかかる」20%、「実況やルールなどの解説を聞きたい」15%が続く
- ・「その他」の内容をみると、「テレビで観る」、「混雑する」などが挙げられている



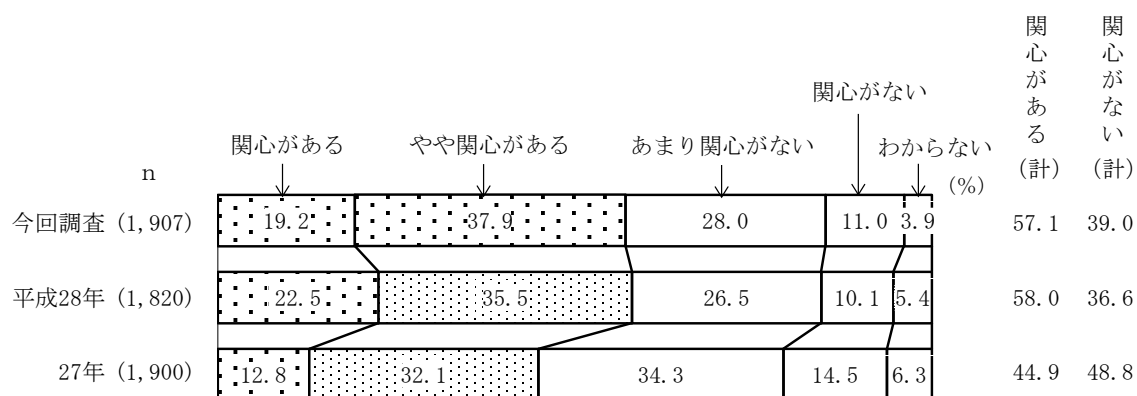
<M. T. =121. 1>

6. 障害者スポーツへの関心度等

(1) 障害者スポーツへの関心度：障害者スポーツへの関心があるかを聞いた

(本文 P 67～ P 69)

- ・『関心がある(計)』が57%
(昨年と比較して大きな差はないが、平成27年よりも12ポイント増加)
- ・『関心がない(計)』が39%
(昨年と比較して2ポイント増加しているが、平成27年よりも10ポイント減少)



(注1) 『関心がある(計)』は「関心がある」「やや関心がある」の合計

『関心がない(計)』は「あまり関心がない」「関心がない」の合計

(注2) 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」(平成28年9月調査)

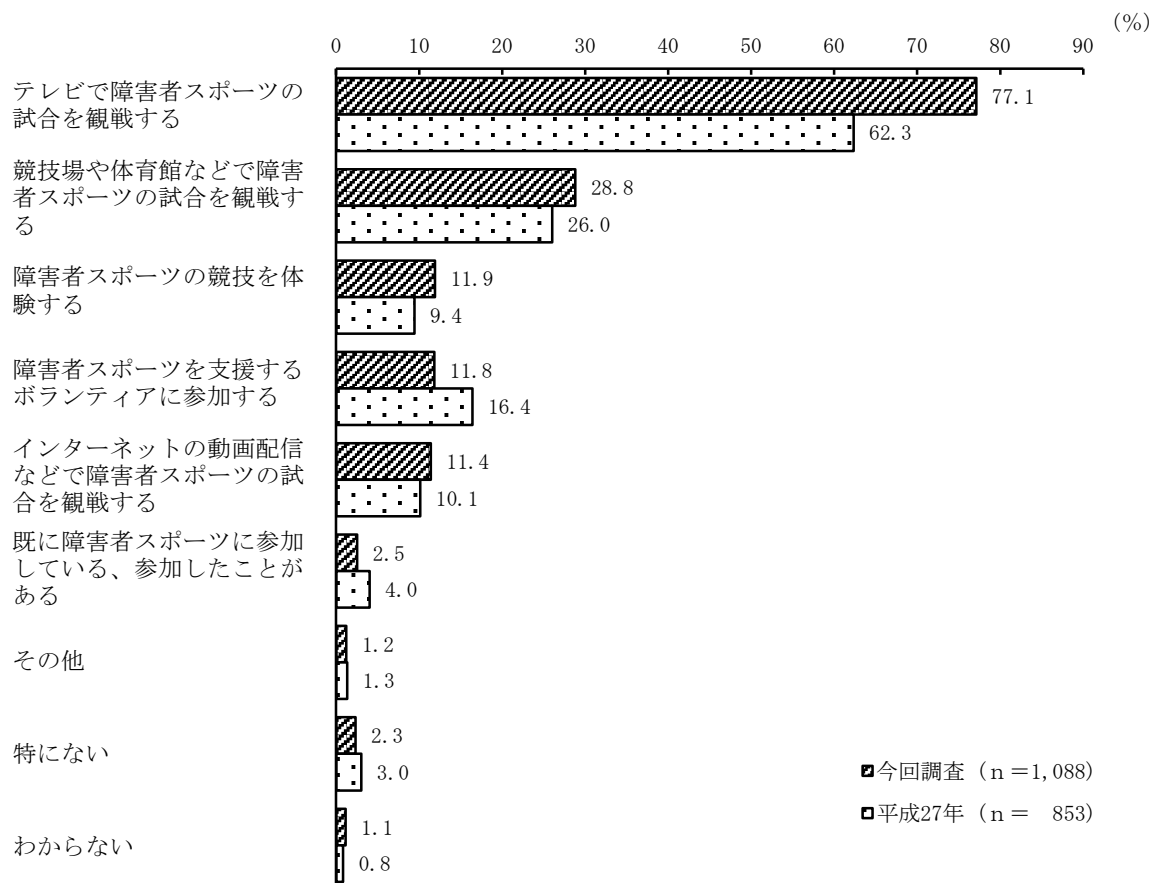
平成27年は「都民生活に関する世論調査」(平成27年8月調査)

[障害者スポーツに関することではしてみたいこと] :

「関心がある」「やや関心がある」と答えた人 (1,088人) に、障害者スポーツに関することではしてみたいことを聞いた (M. A.)

(本文 P70～P73)

- ・「テレビで障害者スポーツの試合を観戦する」が77%でトップ
(平成27年よりも15ポイント増加)
- ・「競技場や体育館などで障害者スポーツの試合を観戦する」29%、「障害者スポーツの競技を体験する」12%と続く



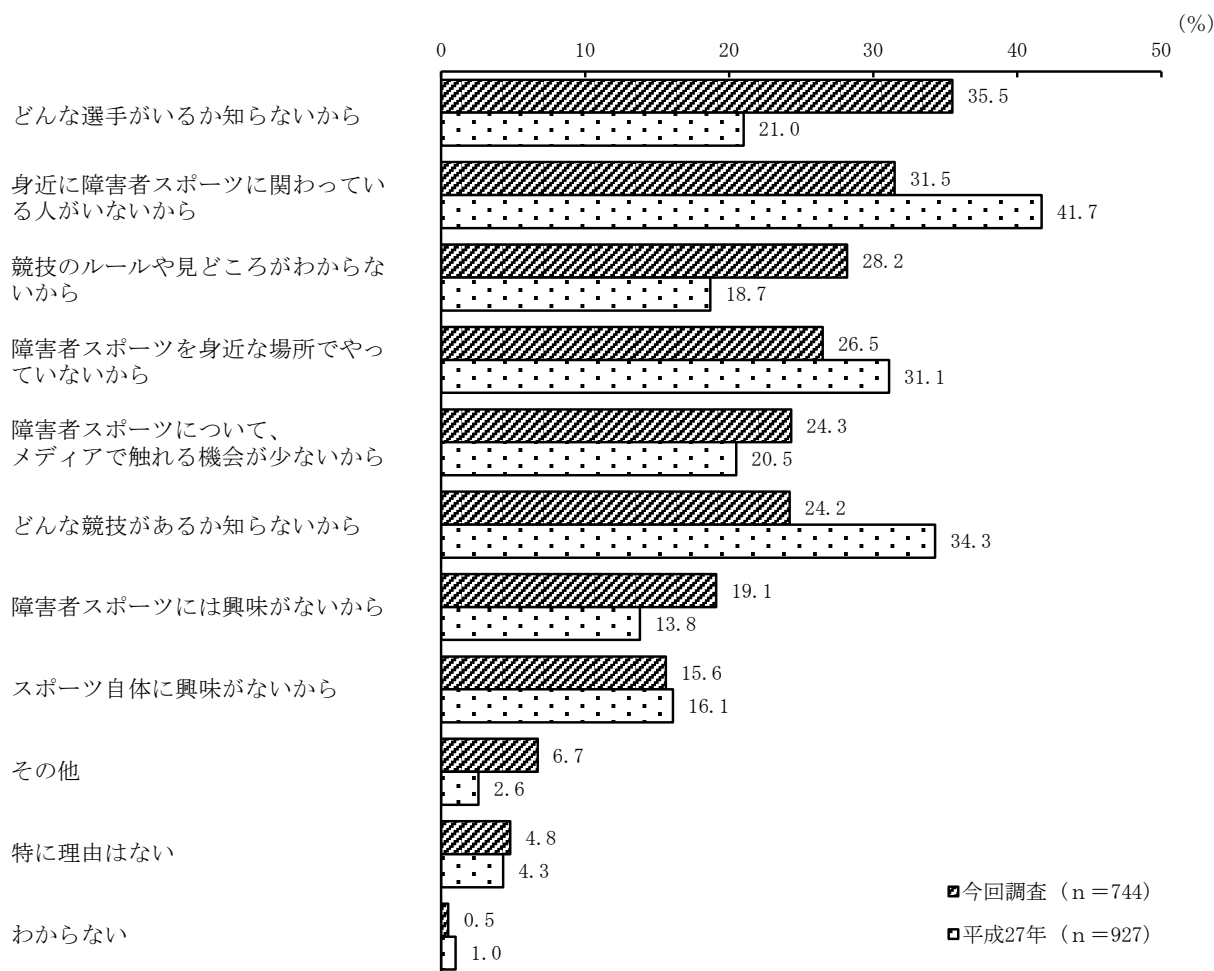
(注) 平成27年は「都民生活に関する世論調査」(平成27年8月調査)

[障害者スポーツに関心がない理由]：

「あまり関心がない」「関心がない」と答えた人（744人）に、障害者スポーツに関心がない理由を聞いた（M. A.）

（本文P74～P77）

- ・「どんな選手がいるか知らないから」が36%でトップ（平成27年よりも15ポイント増加）
- ・「身近に障害者スポーツに関わっている人がいないから」32%、「競技のルールや見どころがわからないから」28%が続く



（注）平成27年は「都民生活に関する世論調査」（平成27年8月調査）

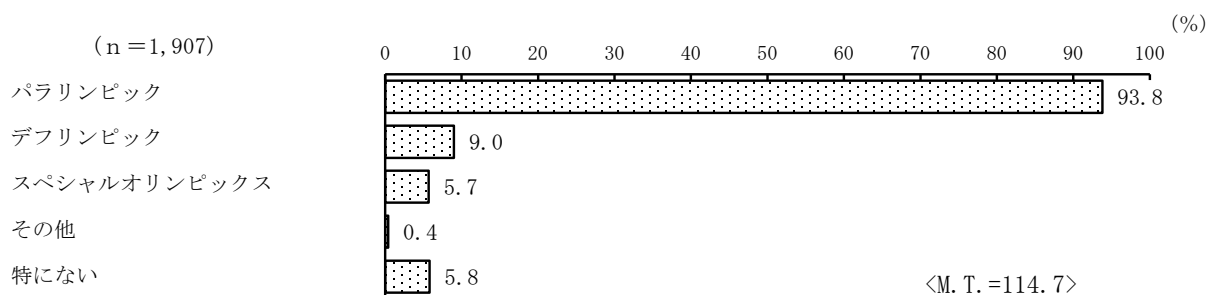
(2) 障害者スポーツの国際大会の認知度：

障害者スポーツの国際大会について知っている、または聞いたことがあるものを聞いた

(M. A.)

(本文 P 78～ P 80)

- ・「パラリンピック」が94%でトップ
- ・「デフリンピック」9%、「スペシャルオリンピックス」6%が続く



※ デフリンピックとは

身体障害者のオリンピック「パラリンピック」に対し「デフリンピック (Deaflympics)」は、ろう者のオリンピックとして、夏季大会は1924年にフランスで、冬季大会は1949年にオーストリアで初めて開催されています。障害当事者であるろう者自身が運営する、ろう者のための国際的なスポーツ大会であり、また参加者が国際手話によるコミュニケーションで友好を深められるところに大きな特徴があります。

<(一財)全日本ろうあ連盟スポーツ委員会デフリンピック啓発ウェブサイトより引用>

<http://www.jfd.or.jp/deaflympics/games/about.php>

※ スペシャルオリンピックスとは

スペシャルオリンピックスは、知的障害のある人たちに継続的なスポーツトレーニングとその発表の場である競技会の提供を使命とし、活動を通して彼らの自立と社会参加を促進し、生活の質を豊かにすることを目的とする活動です。オリンピック、パラリンピック同様、4年に一度夏季、冬季の世界大会が開催されます。日本でも世界大会への予選会を兼ねて全国大会を行っています。

<(公財)スペシャルオリンピックス日本公式サイトより引用>

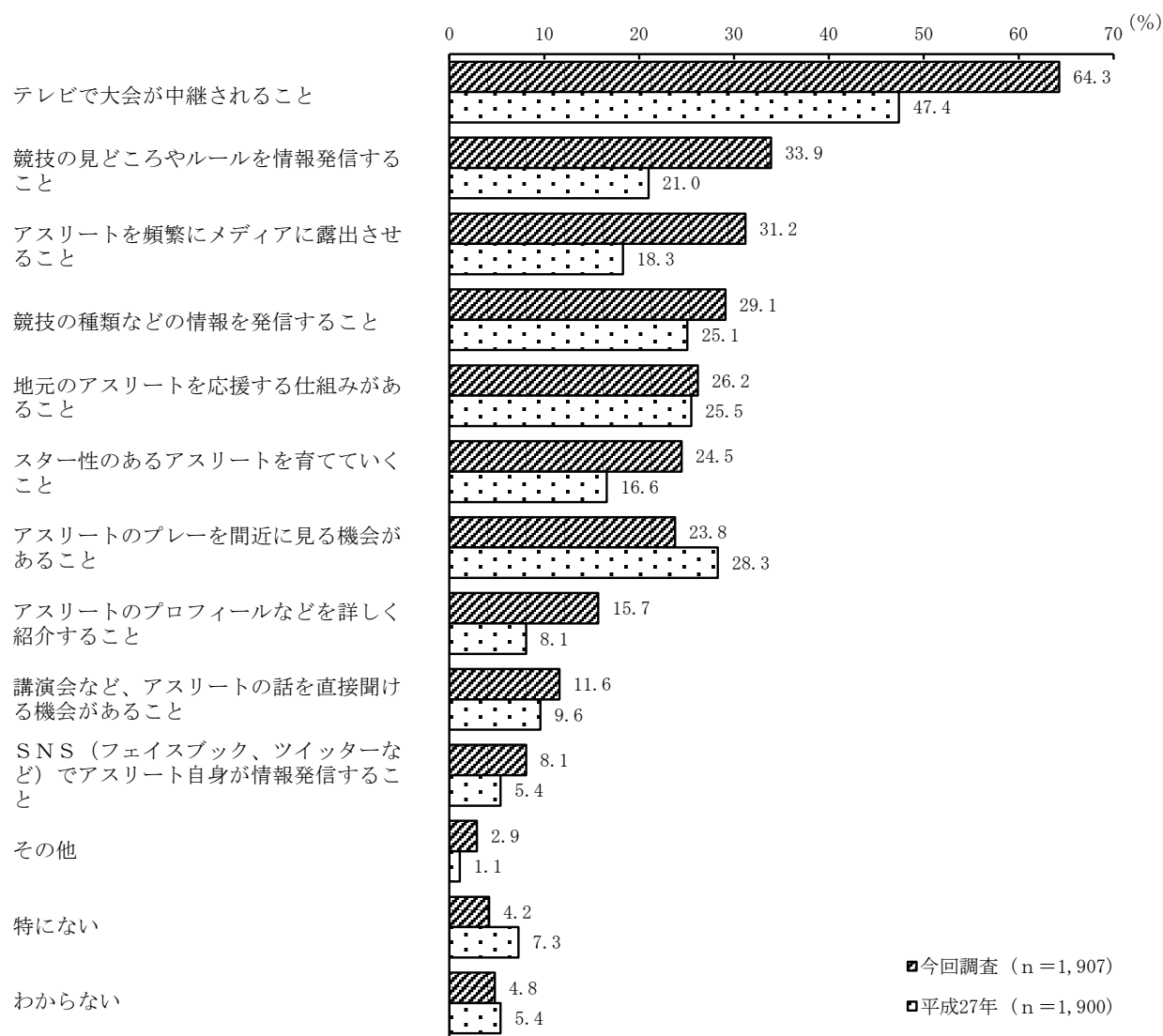
<http://www.son.or.jp/about/index.html>

(3) 障害者スポーツへの関心を高める取組：障害者スポーツへの関心を高める取組を聞いた

(M. A.)

(本文P81～P84)

- ・「テレビで大会が中継されること」が64%でトップ（平成27年よりも17ポイント増加）
- ・「競技の見どころやルールを情報発信すること」34%、「アスリートを頻繁にメディアに露出させること」31%が続く



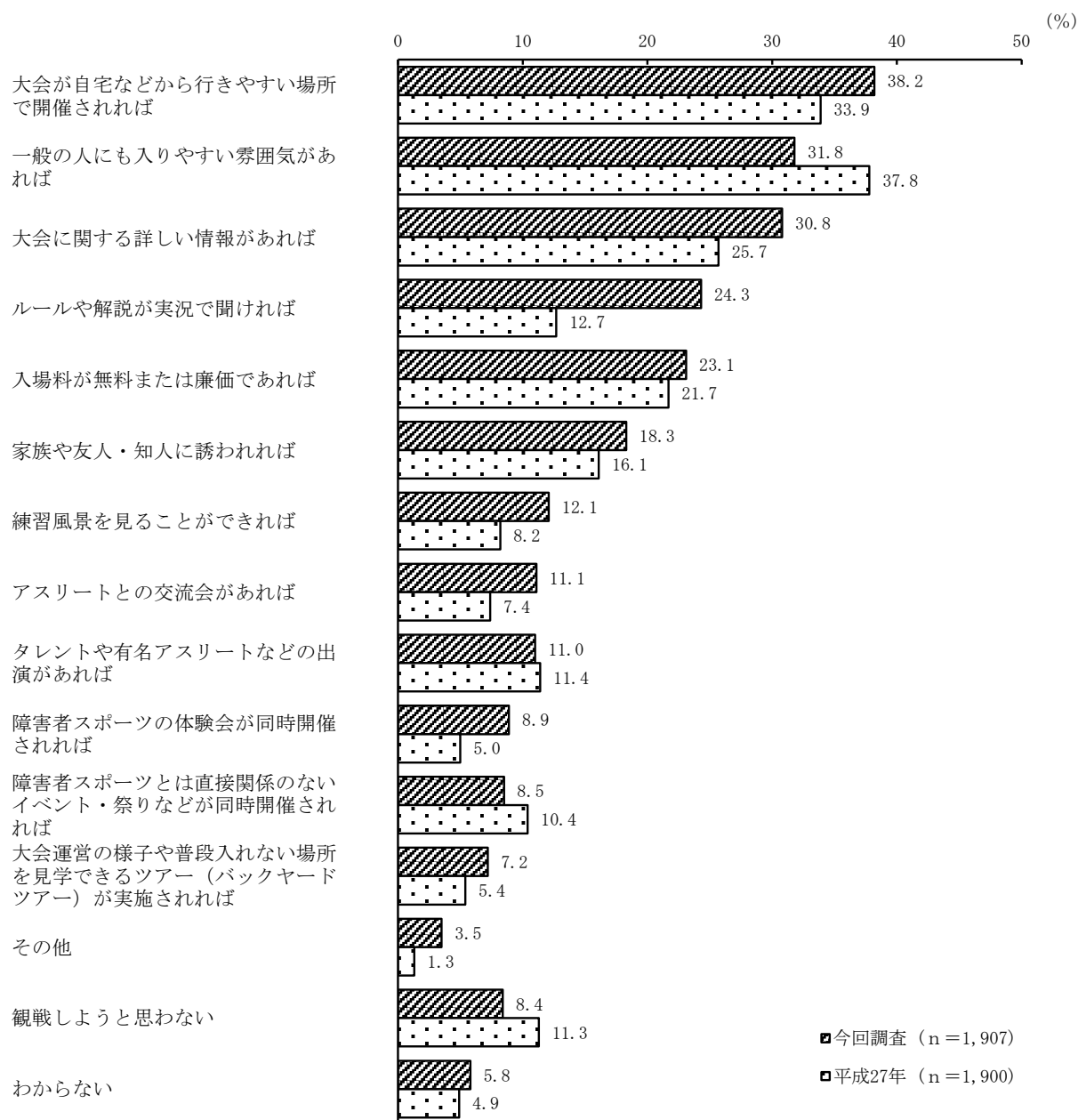
(注) 平成27年は「都民生活に関する世論調査」(平成27年8月調査)

(4) 障害者スポーツの大会を実際に観戦してみようと思う取組・工夫：

障害者スポーツの大会を実際に観戦してみようと思う取組・工夫を聞いた (M. A.)

(本文 P 85～ P 88)

- ・「大会が自宅などから行きやすい場所で開催されれば」が38%でトップ
(平成27年よりも4ポイント増加)
- ・「一般の人にも入りやすい雰囲気があれば」32%、「大会に関する詳しい情報があれば」31%が
続く



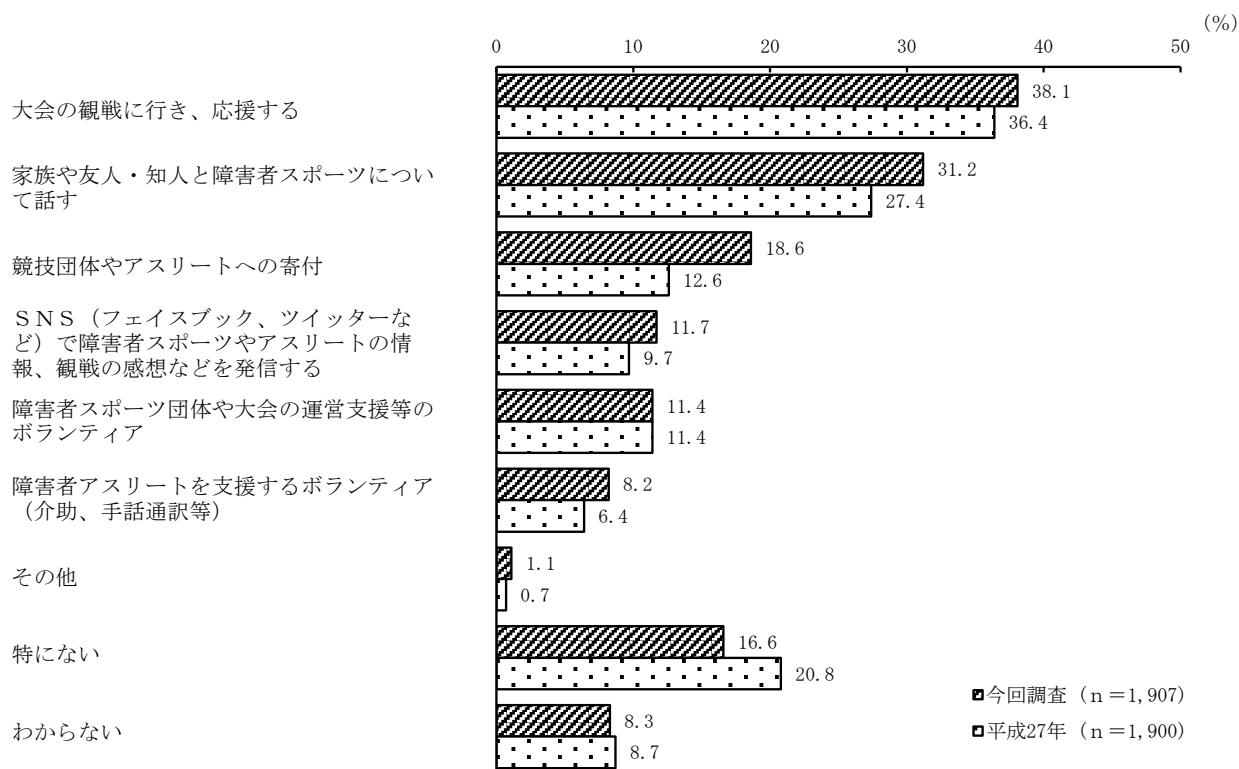
(注) 平成27年は「都民生活に関する世論調査」(平成27年8月調査)

(5) 障害者スポーツ団体や障害者アスリートへの支援：

障害者スポーツ団体や障害者アスリートへの支援としてできることはあるか聞いた (M. A.)

(本文 P 89～P 92)

- ・「大会の観戦に行き、応援する」が38%でトップ (平成27年よりも2ポイント増加)
- ・「家族や友人・知人と障害者スポーツについて話す」31%、「競技団体やアスリートへの寄付」19%が続く



(注) 平成27年は「都民生活に関する世論調査」(平成27年8月調査)